

人と人が 「繋がる」ということ

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
訪問看護ステーションさくら訪問リハビリ主任 理学療法士 古里俊二

「あんたが来るとね、ホッとするよ」。

これは、ある利用者が私に言った言葉です。訪問リハビリ駆け出しだった頃、この言葉は私の原点となり今でも心の支えとなっています。

当時、訪問リハビリに携わるようになり、在宅でのリハビリに可能性を感じる半面、病院内でのリハビリとの違いに戸惑うこともありました。また、ひとりの利用者を支援するために多職種連携が重要だと頭では分かっているにもかかわらず、実際にどのようにアプローチすればいいのか悩むことが多かったと思います。

訪問リハビリの役割は実に様々です。具体的には日常生活動作の練習、介護・介助方法の検討・アドバイス、外出の練習、家事動作の練習、福祉機器・福祉用具・補装具の提案や適合評価、住宅改修の提案・アドバイス、社会参加や趣味活動の促進などなど。その役割は多岐にわたります。

私の考えとして、訪問リハビリに求められるものは何だろうかと改めて考えたとき、身体機能へのリハビリアプローチはもちろんですが、私は利用者が自宅で過ごすための「安心感」をどれだけ高め、提供できるかが重要と考えます。もちろん家族にも同様です。

病院から退院し自宅に帰った時、利用者は帰ってきた喜びと安堵感で何とも言いがたい良い表情をされます。私も「あれ？本当はこんな表情もするんだな」と感じる場面も多々あります。それだけ自宅で生活するということが大きな力を持っているのです。しかしいざ帰ってくると、病前は当たり前だったことができなかつたり、簡単だったことがうまくできなかつたり。屋外に出ることがおっくうになるなど、利用者はそのギャップに悩まされます。自分自身への自信が崩れ、そしていつしか自信より不安の方が勝ってしまい、自宅や地域での「役割」を十分に果たせていないと感じることで自宅に引きこもりがちになってしまうのだと思います。

訪問リハビリの依頼は色々な理由で相談がきます。退院後で自宅の生活に不安がある方以外にも、自宅で転倒しやすくなった方、またご家族からは介助が上手くできないから教えてほしいなど、そのニーズは多く、共通したたくさんの「不安」があります。まずは利用者の不安を聞かせていただき、その不安を共有して一緒に目標を明確にすること。そして利用者だけでなく、ご家族や地域の力を巻き込んで支援することも重要です。訪問リハビリという支援を行うにつれ「今度はこういうこともやってみようかな」と、身体だけでなく心も一緒に動く瞬間は訪問リハビリの醍醐味と言えます。

以前、印象的な利用者がいました。リハビリに対しあまり意欲的でなく、時には自宅に行くと「今日はいい」と拒否することもあり、私達もどうしたらうまく介入でき



るか悩むことが多いケースでした。最終的にはその方が本当に望んでいることは何なのかを考え、担当ケアマネジャーに相談し協力をもらい、電動車椅子での買い物や時には家族・ケアマネジャー・訪問看護師同行で花見にも行きました。その時は利用者もとても穏やかに過ごされていたように思います。利用者だけでなく、その人を取り巻く様々な人達が嬉しい想いを共有する、私達の理想とする支援のひとつです。外出前は他事業所とも様々な連携を行いました。明確な目的があり想いがひとつであれば、多職種連携は必然と行われるのだと感じました。今ではいい思い出です。

最後になりますが、私は訪問リハビリを行う上で自分自身が大切にしていることがあります。自己満足の支援にならないこと、他人の土俵に入ることや忘れないこと、自分の家族だったらどうして欲しいかの視点で考えること。当たり前のことですが、とても重要なことだと感じています。利用者にはそれぞれの歴史があります。どこで生まれたのか。どんな仕事をしていたのか。どこで多くの時間を過ごしてきたのか。どんな人々と関わってきたのか。どんな人生を送ってきたのか。そんな長い道のりを歩んできた利用者にとって、私達の関わりはその方の人生にとってほんの一部でしかありません。重要なのはその方の人生を尊重し、訪問リハビリとして関わることでできた縁を大切に考え、「今」を支援すること。それにより、その方の人生の一部が少しでも豊かなものになれば良いと考えています。それが地域のためにもなっていることを私は信じています。

「あんたが来るとね、ホッとするよ」

私はこの言葉に、人と人との繋がりを感じます。

事業所紹介

「いちき串木野市医師会立脳神経外科センター訪問看護ステーションさくら」

行動指針「やさしく・強く・おもしろく」優しさを優先し、専門職として強さを持ち、自分自身も楽しむ。

一緒に働く仲間が、助け合い協働していく、温かいステーションです。地域の専門職の方々と連携し、「生きることの支援」を実践します。地域の訪問看護を必要とされているすべての方に、訪問看護を届けます。